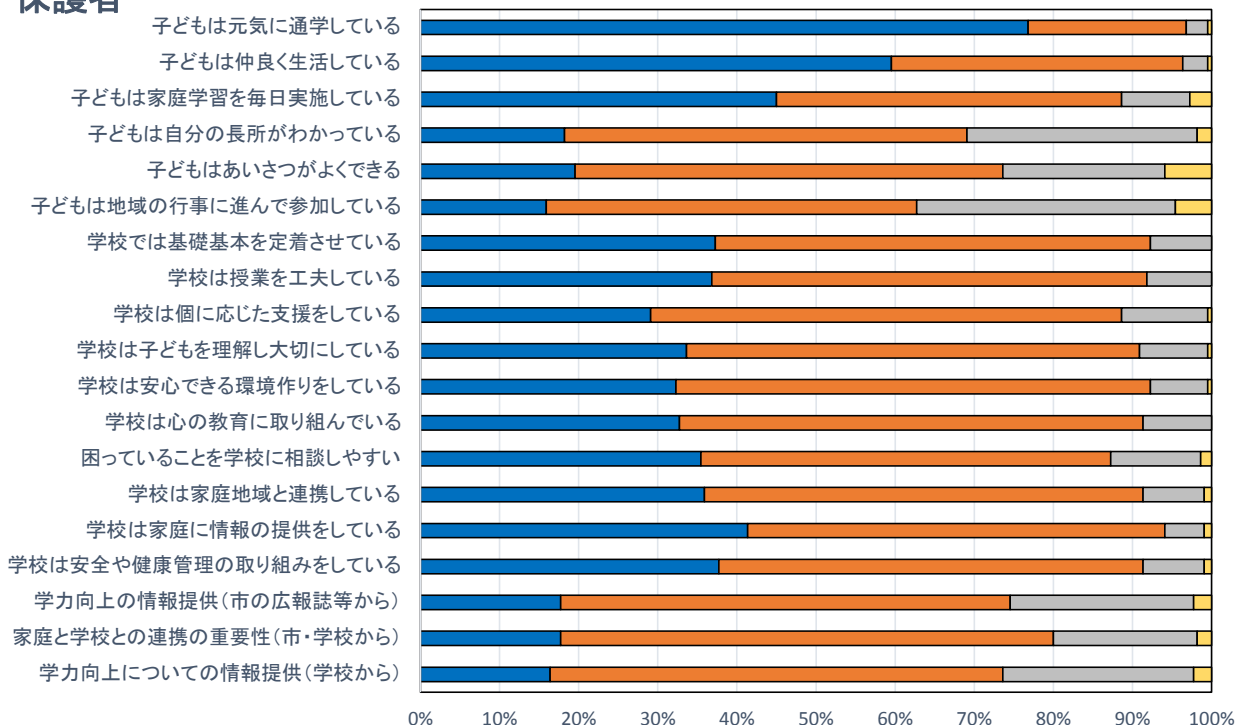


3.学校評価(平成30年度 第1回目)

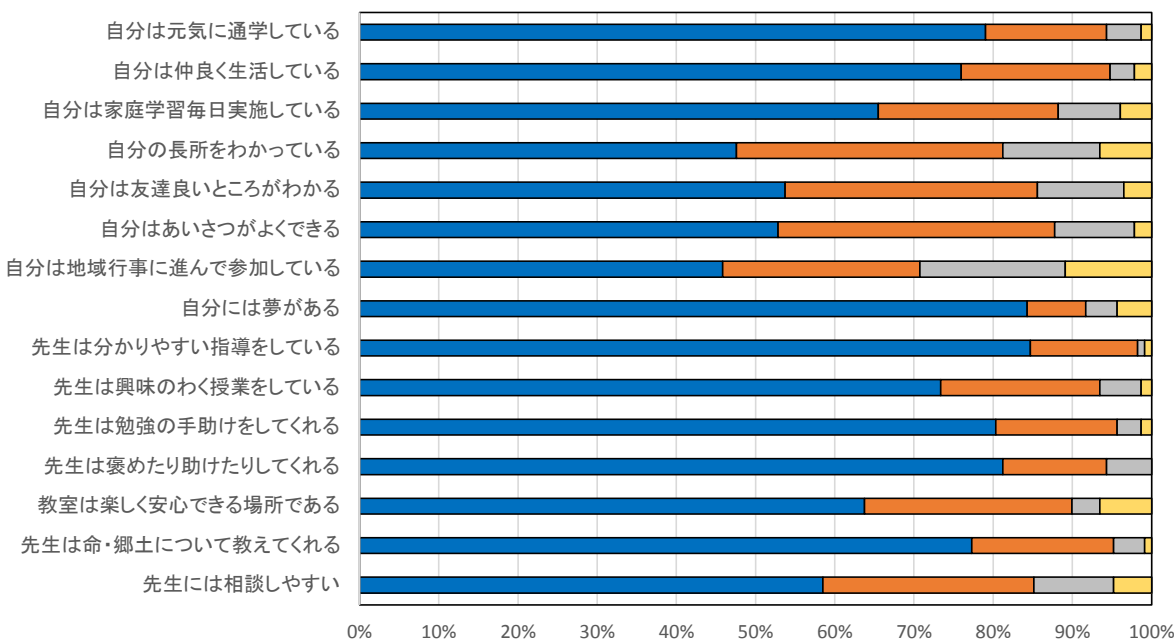
ここでは、7月に実施した平成30年度の第1回目の保護者・児童からの学校評価と教員の自己評価についてお知らせしています。集計の結果から、『そう思う』『まあそう思う』を【良い点】、『あまりそう思わない』『そう思わない』を【改善点】と捉え、分けて記述しました。お忙しい中、評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

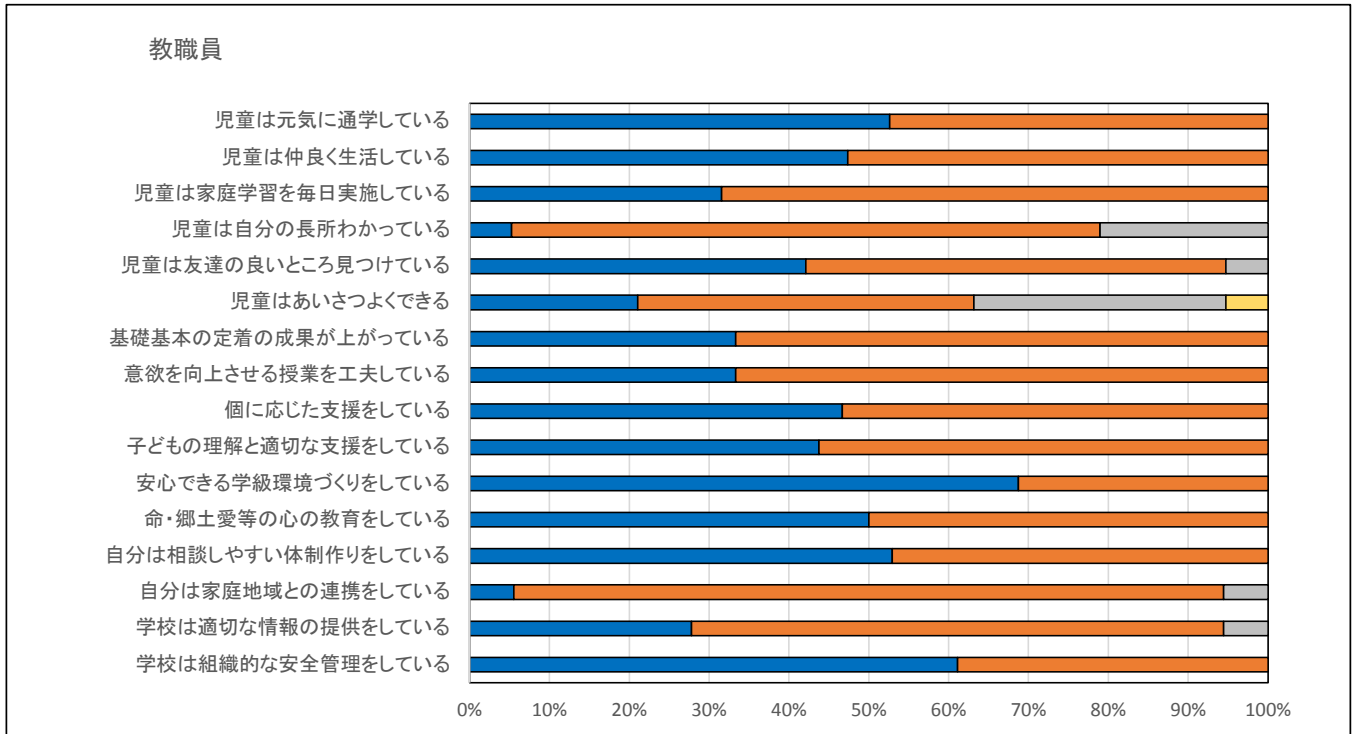
■ そう思う ■ まあそう思う
■ あまりそう思わない ■ そう思わない

保護者



児童





回答に対し、「そう思う」「まあそう思う」を肯定的な意見、「あまりそう思わない」「そう思わない」を否定的な意見としてとらえました。

【良い点】

・児童、保護者、教員とも、「自分は元気に通学している」「自分は仲良く生活している」という回答は、肯定感が高い割合を示しています。

・保護者の「基礎・基本の定着」、児童の「分かりやすい授業をしてくれる」は同義の項目ですが、どちらも肯定的な回答でした。教職員が最重点として取り組んでいることです。子どもたちの笑顔を見るために、今後も授業の改善に取り組んでいきます。

・「学校から家庭への情報提供」について、保護者から高い評価が得られました。ホームページによるほぼリアルタイムな情報発信、『学校だより』の充実など、今後も情報提供に努めていきます。

【改善点】

・「地域行事に進んで参加している」は、児童・保護者とも肯定感が最も低い項目でした。2学期は地域の催しや交流イベントが多くなります。家庭や公民館等と連携して、児童への情報提供と共に職員も参加しながら、児童の参加率アップを目指していきます。

・「あいさつ」については、児童と保護者・教員の評価に最も格差が見られました。児童は、教室や廊下等の校舎内では大きな声であいさつができています。しかし、登下校時などの校外（一般社会）でできる児童は減ってしまいます。学校内は練習の場で、校外（一般社会）で自分からあいさつできることが目標であることを伝えていきます。保護者・地域の皆様、今後も児童への声かけよろしくお願いたします。

・「自分の長所わかっている」が低めの肯定感でした。2学期には多くの行事や体験活動等が予定されています。それらの活動をとおして成功体験や達成感・成就感を数多く味わわせることで、児童一人一人に自分の良さを気付かせていきます。